

B C L ファンの交流誌

No.3

အမျိုးသမီး

アーユボーワン



まるごと「BCL 女子」の特集号

2020 春

INDEX

陽子さんのお言葉。（岡田陽子）	1
えいみいの楽しい BCL 生活(再)（えいみい）	2
ほのぼのアンケート調査『お父さんが BCL の娘さんに聞いてみた』	8
BCL どうすんだよ親娘問答（せきやま☆親娘）	12
JUST A GIRL WHO LOVES SHORTWAVE LISTENING（なんば 奈菜）	14
BCL のきっかけをすごく真面目に書いてみた！（DANCE）	18
[ハムフェア雑感]BCL 女子が増えてる予感（せきやま☆れいわ）	20
～いっしょシリーズ vol.2～『ベトナムの声』といっしょ（植村 昭男）	22
「人生を楽しむ」知ってもらいたい「私の気持ち三つ」(アエーシャー・ダルマシリ)	29
ゴトゥコラのおいしい食べ方（なんば 奈菜）	30
せきやま☆れいわのオフ会スペシャルレポート	32
哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ（せきやま☆れいわ）	46

編集後記

陽子さんのお言葉。



学校で小さい時からね、“為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり”っていうのを毎日言わされてたんですよ。だからね、自分がやろうと思ったら、もうね、やれなくても一生懸命やったらやれるんだっていうのがいつもありましたね。私なんか絵がそんなに上手でもなかったけれど、一生懸命やってるうちになんとかなってきた。そんなもんですよ。誰でも一生懸命やればなんとかなるもんですね。それはね、若い人たちは自分で戒めて、途中で辞めたりしたらダメ。ギブアップしないで何でも一生懸命やれば必ずなんとかできます。（2019年7月のインタビューより）

元スリランカ放送協会 日本語アナウンサー 岡田陽子

えいみの楽しいBCL生活（再）

えいみい（スリランカヲタ）

はーじまりはじまりい（^◇^）

BCLを始めたのはJKの頃でしたがSLBCが日本語放送を休止した後すっかり放送を聞くこともなくなり就職してみたり、引っ越ししてみたりしているうちにいつの間にやらBCLから遠ざかってはや30年（ヒー！）。



SLBC 終わった後もえいみいはスリランカは好きだけに行ったことなく、ジャズライブを時々やったり、ベランダでちょうちょを育てたり、というごくありふれた平穏な毎日を送っていました。

そんなえいみい、ふと「スリランカと一緒にいく友達とか出来たらええなあ」という軽い気持ちで日本スリランカ友の会にネットから入会。その時たまたま友の会設立30周年というタイミングだったため、研修旅行の参加者を募集していたので、

はーい！行く！！行く行く！！行きたーい（^◇^）ノ

と調子よく参加申し込んで、初スリランカ旅行はさっくり実現しちゃいました。

しかしながらスリランカの知識といたらいにしえのSLBC日本語放送の情報だけ。それも使われていない屋根の上に放置されていた八木アンテナにこれまた使わなくなってどっかから外して納戸に放り込まれていたビニール被覆線を引っ張り出してきて結わえ付けるといふ「なんじゃこりゃアンテナ」でノイズだらけの放送をJKの若さだけの聴覚に頼って聞いた15分間の放送からの情報なので、かなりのかたよりと妄想とメルヘンがごちゃ混ぜとなっていました。

どんな感じかって-と…

- ・スリランカは自然がいっぱい
- ・スリランカは宝石がいっぱい
- ・ルビーをバーナーであぶってブルーサファイヤとして売っている悪い人がいる
- ・スリランカはコハというカラスのように黒くて目だけがまっ赤な鳥がいる
- ・スリランカは内戦をしている
- ・ドリアンはプリンみたいな味だ
- ・岡田陽子さんがすざまじい美人だ（←これはあったことあるから）
- ・岡田陽子さんちの庭にクジャクが飛んでくる

とゆー徹底的に壊滅的な情報（ってか情報なのか、これ？）だけでスリランカに行っちゃったため、ただただみんなとはぐれないように歩き続けるツアーとなりました。

そして帰国後行程表をみて、おお、なんかすごい盛りだくさんだったのねーなんて感心しちゃったりして。

行ったことないスリランカヲタと行ったことあるヲタではやっぱ違います。
特に態度が www

スリランカツアーで行ったお寺の映像がテレビで流れたりすると
『ああー、なつかしいわあ。そうそう、ここでさあサルが出てきてさあ〜』
とまるでスリランカが自分の庭の様な発言しちゃったり。

しかしながら、ツアーで行ったときは陽子さんに会いに行けなかったのが、今度は好きなように好きなところに行って好きなだけダラダラ過ごそう！と思って一人旅を計画。

で、一人旅してきました。

一人旅つつても陽子さんちでは陽子さんファミリーに頼りっぱなし。英語話されへんからチョー無口。他の観光では日本語ガイド君とドライバーの二人に頼りっぱなし。



それでも 2 回のスリランカ旅行でますますスリランカ好き好き人間になり、友の会のイベントや年に一回のスリランカフェスティバルにも参加するようになったのでした。

スリフェスで BCL 再開？！

そんなえいみいがお一度BCLを再開したのはスリランカフェスティバル 2018 でのれーちゃん OM（当時せきやま☆あすか氏）との初顔合わせがきっかけでした。

2018 年 8 月、えいみいがスリランカフェスティバルに参加するということを知ってわざわざ代々木公園に足を運んでくれたれーちゃん OM。

その日はたまたま秋葉原BCL クラブのミーティングの日で、ミーティングの前にちょっと挨拶だけしようと思ってきてくれはったらしいのですが、結局お昼のカレー調達にオニのような時間お待たせし、さらにそのカレー（ランブライス）は辛くて量が多いというさんざんな目に遭わせてしまった（しかも猛暑のためビールはぬるかった。それも黒ビールっ）

そんな大変な状況にもかかわらず BCL 再開への道案内をしていただき、今に至ります。（前置きが長くなったので丸めました）

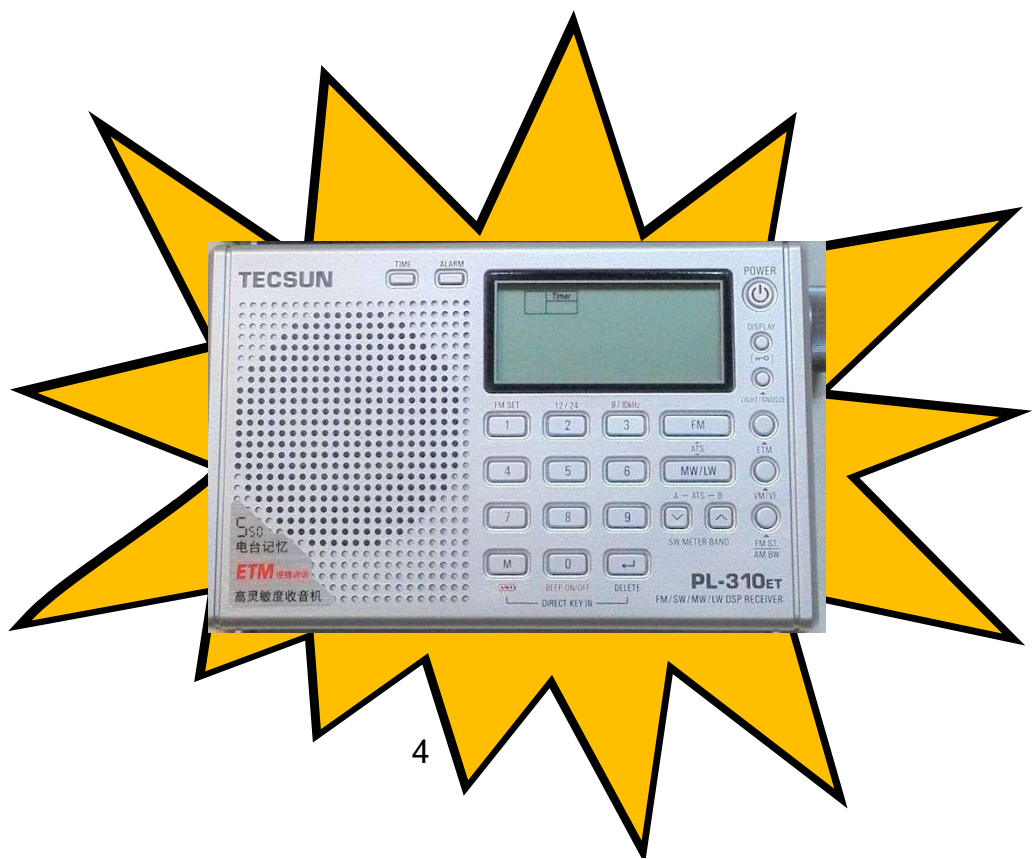
その際に、

- ・ ちっこいラジオは 6,000 円ぐらいでアマゾンで買える
- ・ ロッドアンテナでいろいろ聞ける
- ・ 短波放送は少なくなってる

という現状をざっくり教えてもらいました。



そして「ラジオ買います！ほんで『BCL 再開しました！』ってブログに書きます！ラジオの写真にバーン！ってゆー劇画タッチの線（効果線のことを言っている）入れて貼ります！！」と異常な盛り上がりとなったのでした（結局書いてへんけど）。



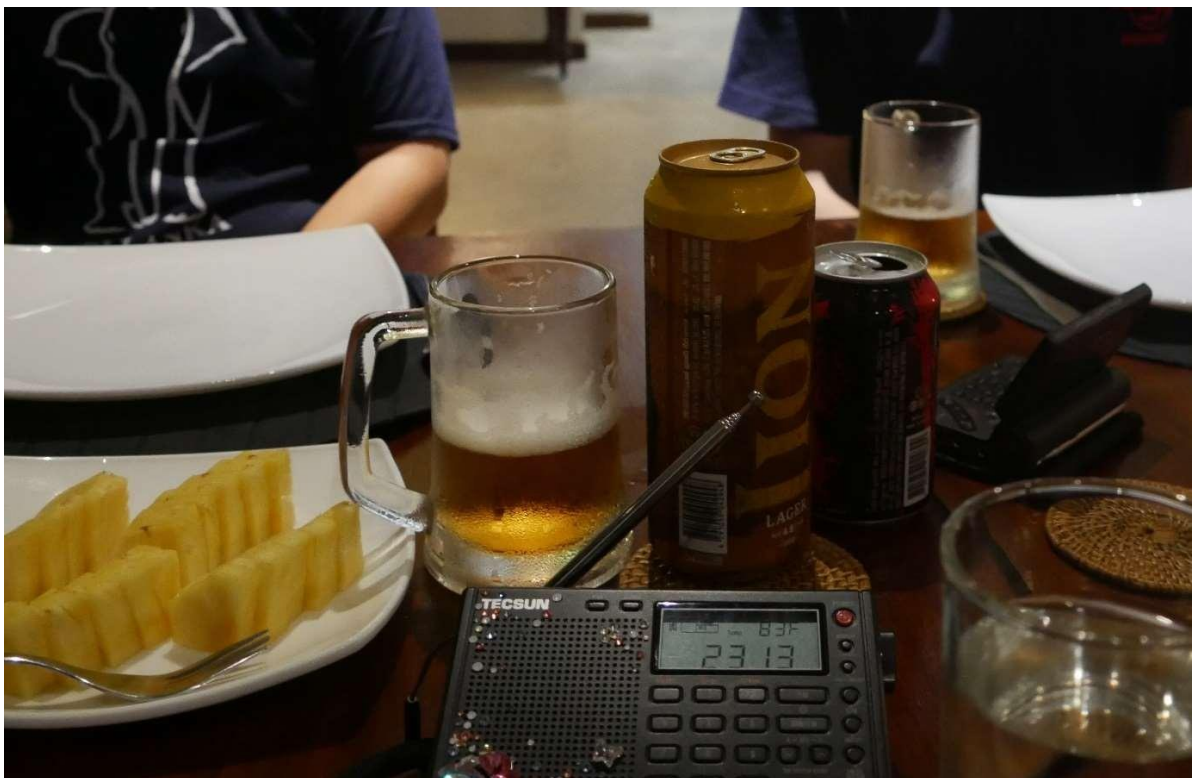
スリランカでおもったー

その後とんとん拍子にスリランカへ岡田陽子さんに会いに行くツアーを実施（笑）
その時、Sayurahouse（サユラハウス、SLBC 元アナウンサー岡田陽子さんファミリーが
オーナーのブティックホテル）の屋上テラスで NHK ワールドサービスのワッチ大会をし
たのですが。。

あれっねえねえ、さっきまで聞こえてたのにノイズだらけで聞こえなくなっちゃった。
どーして？おんなじ場所なのになんで？
アンテナの方向？（ラジオ持ってテラスをウロウロ・・・）うーん。。
そうこうしているうちにターゲットにしている局の放送時間が終了。

そして帰国したえいみいは思った。
次回はもっと時間を取って、面白おかしく屋上テラスでワッチしたい。
キンキンに冷やした冷たい飲み物などをいただきながらの優雅なワッチタイム www

はあああ、早くまたスリランカ行きたいよぉ！
もはや冷たい飲み物が最優先順位となっているえいみいなのでした。



そしてハムフェア

さてスリランカツアーの興奮冷めやらぬ 2019 年8月末、ハムフェアに初参加。
『アーユボーワン vol.2』にスリランカツアーのみんなの手記を特集にさせていただいたのと
スリランカに行ったときに陽子さんにおみやげとして持って行ったデコラジオがことのほ
か可愛くできたので、調子に乗って新作を作って並べていただきました（≧▽≦）



デコラジオを見て『ナニコレかわいい!』と
少年少女がつぶやきなが
ら通り過ぎていきま
す。
これが 1000 円とかや
ったらお父さんは買っ
てあげていたでしょ
うか。
目線の高さにあるキラ
キラのデコラジオを見
つめるお目々がキラキ
ラして嬉しかった。



（左）陽子さんへのおみやげのデ
コラジオ。

（下）スリランカみやげのシャツ
を着たれーちゃんOM。



ハムフェアではいろんな方が秋葉原BCLクラブのブースに来られて、えいみいが以前より知っている、でも会ったことのない方々にお会いすることができました。そして、BCLに興味のある女子の皆様にも会うことができました。

楽しく楽しい2日間でした。来年も10月に開催されるらしいので、是非また行きたいです。

最後になりましたがBCL女子部のこと

えいみいはBCLでスリランカにつながって、スリランカから再びBCLにつながりました(^▽^)。初めてBCLに出会った時とはまた違う楽しさがいっぱい再開BCL。BCL女子部も作ろうって話になりまして、さっそく会員証作っちゃいました。こんなの。



BCLな女子の会ですが、BCL女子を応援してくださるサポーターさんにも会員証をお届けしています。



←コレがサポーター会員様用。

(手で書いただけwww)

専門分野をわかりやすく教えていただけるお兄様にサポートをお願いいたします。

ってか、いっしょに遊びましょうって感じですが(^^;)。

いっぱい楽しいことしましょ！えいみいでした(^▽^)



♪♪♪ほのぼのアンケート調査♪♪♪ 「お父さんが BCL の娘さんに聞いてみた」

実施：BCL 女子部

まことにお手数ですが以下のアンケートにお答えください。楽しい回答、大歓迎です。

1. お父さんのお名前をおしえてください。(ハンドルネームも可)

RN. 練馬のトランスミット

2. お父さんの趣味が BCL って知ってますか？ ご存知でしたら BCL がどういう趣味なのかおしえてください。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)

「国内外の電波を聴いて楽しむ事」だと言う事は知っています。

3. お父さんが持っているラジオをおしえてください(できれば全部)。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)

【オールバンドラジオ】

National/Panasonic RF-1188 . RF-1010 父と同じ 1976 年製造
TECSUN S2000 . PL-660

【国内 BCL ラジオ】

SONY ICF-EX5MK2

【リビングラジオ】

Audio Comm RAD-T941N
TOSHIBA TY-HR3

【お風呂ラジオ】

ELPA ER-W30F

【防災手回しラジオ】

Audio Comm RAD-V945
SONY ICF-B99

【ポケットラジオ】

SONY ICF-R100MT
Panasonic RF-ND180RA
DEGEN DE17
ANDO AR3-467W 防滴 TBS ラジオ当選品

【ラジオ付き IC レコーダー】

Qriom YVR-R600 ×3

4. お父さんの好きな放送局をおしえてください(いくつでも)。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)

KTWR フレンドシップラジオ
Radio KZOO
TBS・AFN・文化放送・ニッポン放送
bay FM・FM NACK5・TOKYO FM・J-WAVE
FM ヨコハマ・Inter FM・C-FM

5. お父さんは BCL のどういうところが好きだと思いますか？(想像でも OK) わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)

聴こえる筈の受信機で聴こえない…から時間帯やラジオの向き、アンテナを工夫して綺麗に聴取出来た時に地球儀や日本地図を指差して喜ぶ姿や、ラジオから父のラジオネームやリクエスト曲、投稿採用されて当選品が届く度に趣味と実益を兼ねていると思っています。

6. あなたご自身は BCL に興味がありますか？ また始めてみたいと思いますか。それともすでに始めていますか？

小6の頃、放送委員会 副委員長になった時、祖父(父方)に貰った SONY ICF-SW7600G で国内の AM を聴いてみたり、リビングラジオで FM NACK5 や bay FM を聴いてクイズに答えたりしています。

7. BCL 女子部ではみんなで集まって楽しめるイベントを考え中です。してみたいことをおしえてください。たとえば BCL 勉強会、ミニパディション(ラジオを聞く会)、お料理教室、デコラジオ製作会、コスプレそぞろ歩き、お食事会、などなど。

女子バスケ部のキャプテンに任命されたのでハムフェアぐらいしか参加は厳しいです。

8. 年に一回、スリランカに行って BCL する短期間の旅行を企画しています。いつの日かそんな「BCL&観光ツアー」に参加してみたいと思いますか？ またその時はお父さんと一緒に行きたいですか？

海外には行った事ないので興味はありますが、来年は受験生なので… 9.

BCL 女子部ではネットラジオ番組を企画中です。出演してみたいと思いますか？

自信がありません。

10. ご回答ありがとうございました。お答えは BCL ファンの交流誌「アーユボーワン No.3」BCL 女子特集号に掲載させていただきます。「アーユボーワン」ではみなさんからのご投稿を募集しています。これからもご協力していただけますか？(無回答でも可)

お役に立てれば協力させて致します。

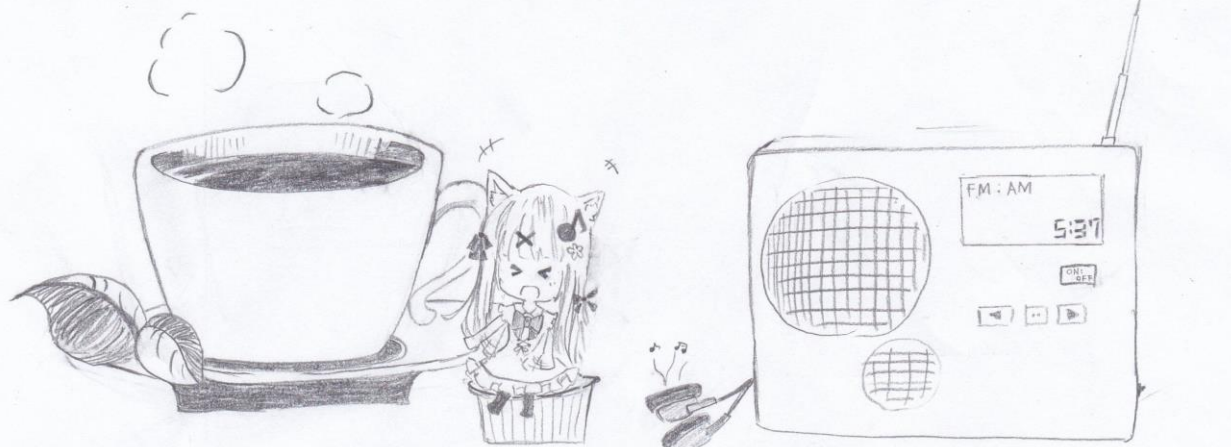
♪♪♪ほのぼのアンケート調査♪♪♪ 「お父さんが BCL の娘さんに聞いてみた」

実施：BCL 女子部

まことにお手数ですが以下のアンケートにお答えください。楽しい回答、大歓迎です。

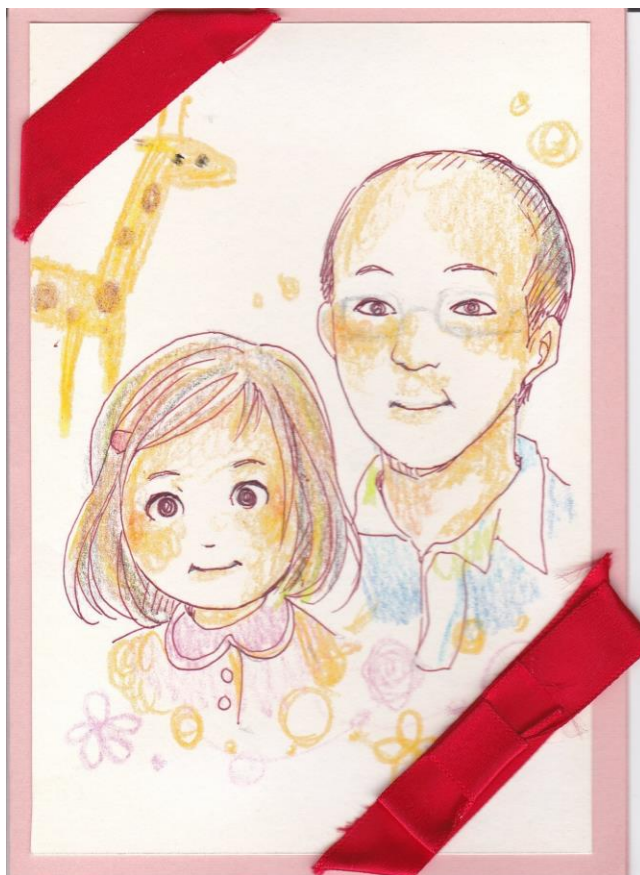
1. お父さんのお名前をおしえてください。(ハンドルネームも可)
2. お父さんの趣味がBCLって知ってますか？ ^{ラジオ男 (www)} ご存知でしたらBCLがどういう趣味なのかおしえてください。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)
3. お父さんが持っているラジオをおしえてください(できれば全部)。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)
^{ラジオでなんかする。w} AORAR7030、ドレークSPR-4 ^{などなど} 何のコトだか意味が全然わからない?ww
4. お父さんの好きな放送局をおしえてください(いくつでも)。わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑) ^{尾崎さんのラジオだとか(笑)}
5. お父さんはBCLのどういうところが好きだと思いますか？(想像でもOK) わからなかったらお父さんにおしえてもらってください。(笑)
^{「海外旅行気分を味わえるから」だそうです! (笑)}
6. あなたご自身はBCLに興味がありますか？ また始めてみたいと思いますか。それともすでに始めていますか？
^{まだよくわかりません。「こんなしゅみもアリなのか〜」ってカンジで(笑)}
7. BCL女子部ではみんなで集まって楽しめるイベントを考え中です。してみたいことをおしえてください。たとえばBCL勉強会、ミニペディション(ラジオを聞く会)、お料理教室、デコラジオ製作会、コスプレそぞろ歩き、お食事会、などなど。
^{お食事会}
8. 年に一回、スリランカに行ってお父さんがBCLする短期間の旅行を企画しています。いつの日かそんな「BCL&観光ツアー」に参加してみたいと思いますか？ またその時はお父さんと一緒にいきたいですか？
^{参加してみたいけど... 行くなら1人か友達とで行きたいです!}
9. BCL女子部ではネットラジオ番組を企画中です。出演してみたいと思いますか？
^{おさそいがあれば(笑)}
10. ご回答ありがとうございました。お答えはBCLファンの交流誌「アーユポーワン No.3」BCL女子特集号に掲載させていただきます。「アーユポーワン」ではみなさんからのご投稿を募集しています。これからもご協力していただけますか？(無回答でも可)

おさそいがあれば(笑)



ご回答：植村昭男さんの娘さん。

仲睦まじい植村さんと娘さん。10 年近く前に某百貨店のイベントでデザイン学校の生徒さんに描いてもらった似顔絵とのこと。



2 年前の「HCJB リスナーの集い」で尾崎さんにピアノ演奏を披露している時のお写真。





SONY のAM/FM アナログラジオを買い与えた娘が今までFM ぐんまばかり聞いていたのだが夜間に AM を聞いてみたら「広島とか島根とか北朝鮮が聞こえた。カムサハムニダとか言ってた」などと言い出した。

どうすんだよ。

「今夜も北朝鮮聞こう」とか言い出した。どうすんだよ。

「北朝鮮の音楽はノリがいい！」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「日曜日はラジオ早く終わっちゃう日だから」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

SONY のアナログラジオは「電池の持ちがすごくいい」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「花田勝が千葉の自宅で同じ SONY のラジオ使ってる」って喜んでるぞ。どうすんだよ。

「SONY のラジオ飽きて来た。そろそろ新しいラジオが欲しい」だと。どうすんだよ。

「新しいラジオ買ってシール貼ろう！」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

ケースデンキ行ってポケットラジオ見てたら「これ短波入るよ」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「日曜の夜は FM が終わったあと AM まだやってる。こないだ大阪のラジオ聞いた。関西弁だよ」なんて言ってるぞ。どうすんだよ。

「ラジオって電池なくなる寸前でザーザーうるさいね」だと。どうすんだよ。

「今日からせきやま☆クリステル」だと。どうすんだよ。

「もっと性能のいいラジオ欲しい」だと。どうすんだよ。

「600 いくつで文化放送が聞こえた。ラジオ壊れた」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「FM よりAM の方がおもしろい」とか言い出したぞ。どうすんだよ。

充電中のおれの D-808 を見て「このラジオの方がよく聞こえそうだ。ちょうだい！」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「1、0、3、4 って押せば文化放送でしょ？」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

ニッポン放送のこと「にほん放送」って言ってるぞ。どうすんだよ。

令和版 BCL マニュアル。「へんな人の写真が載ってておもしろい」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

D-808 が欲しいと言うのであげてしまった。とりあえず AM と FM の聞操作方法だけおしえた。BW は 3kHz にしといた。どうすんだよ。

「D-808 は音がいいから聞いていると眠くなる」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「FM ぐんまよりラジオ高崎の方が音がいい」だと。どうすんだよ。

「D-808 のスリープタイマー解除するにはどうするんだ？」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「D-808 の充電池が一週間持たない！」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

「D-808 より DE1103 の方が音がいい」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

おれが帰って来たら DE1103 のロック外してラジオ聞いてたぞ。どうすんだよ。音量は変えられなかったらしい。(笑)

最近 DE1103 に興味示してるぞ。ついに音量の替え方覚えたぞ。どうすんだよ。

うち帰って来たら DE1103 で普通に FM ぐんま聞いてたぞ。どうすんだよ。

「ラジオ3個あるからもういらない」だと。どうすんだよ。

「なんでそのデカイラジオだといろいろ聞こえるの？」とか言ってるぞ。どうすんだよ。

どうすんだよ。

どうすんだよ。

どうすんだよ。



JUST A GIRL WHO LOVES SHORTWAVE LISTENING

第1章

「続いては群馬県にお住まいの中学1年生の女の子、アリスちゃんからのお手紙です。

『わたしの憧れはラジオのお姉さんです。遠く離れた南の島からのお姉さんの声にはいつも元気をもらってばかりです。いつかわたしも誰かのために元気をあげられるようになりたいです。』」

今週の放送でわたしの書いた手紙が読んでもらえました。今月のテーマは“私の憧れ”。先月最後の放送で発表されたこのテーマを聞いて、思いきって手紙を書いてみることにしたのです。海外の放送局に手紙を送るのは初めてのことで、ちゃんと届くかずっと心配でした。でも昨日の放送で読んでもらえてとてもうれしい気持ちです。

私がラジオを聴くようになったのは小学6年生ときでした。パパからの誕生日プレゼントで赤いラジオをもらったからです。使い方が良く分からなかったのも、はじめは県内のFMラジオしか聴いていませんでした。でも、ある日どこか変なボタンを押してしまったようで、日本語ではない言葉が聞こえてきたのです。ダイヤルを回すとピーとかザーとか変な音に混じってたくさん放送が聞こえてきました。パパに聞いてみると外国にある放送局からの電波が届いているのだと言っていました。「外国からの放送が聞こえるよとか言ってるぞ、どうすんだよ。」とかブツブツ言いながら、パパはわたしに1冊の本をくれました。“BCL ハンドブック”と書いてあるこの本の中で南の島からの放送の事を知りました。南の島からの放送は毎週金曜日の夜に15分間放送されています。南の島の気候や文化、時には鉄道旅のお話があったりして、放送を聞きながらその風景を思い浮かべるだけでワクワクしてきます。

今日は久しぶりにパパとドライブに行きました。妙義山というところで、山の上には神社がありました。このところずっと暑い日が続いていますが、山の上まで来ると涼しかったです。パパは小さいラジオを持ってきていて、山の上で聴きはじめました。山の上は見晴らしが良いので遠くの放送局が聞こえるそうです。今日は土曜日なので南の島からの放送はありませんでしたが、中国語やロシア語が聞こえてきていたようです。でも、たぶんパパは何をしゃべっているのか分かっていないと思います。そしていつものガラガラの派手な服装で真っ赤なオープンカーと並んだパパの写真を撮ってあげるととてもうれしそうでした。帰りに道の駅でソフトクリームを食べました。冷たくておいしかったです。

第2章

家から高校まで、徒歩とバスを合わせて片道1時間20分。どうしてこんな田舎に家があるのかと嘆きたくなります。バスに乗っている間は本を読むと酔ってしまうので、いつもラジオで英語講座を聴いています。おかげで英語の教科だけは得意です。

「そのラジオ、かなり珍しいやつだね。」

ある日帰り道のバスで隣に座った男子に声をかけられました。突然の事だったので返事に困っているとその男子は一方的にどんどん話してきました。どんな機能が付いているとか性能がどうとか、訳あって実際に生産されたのはほんの僅かな台数だけだとか。私はあまりラジオのことは詳しくないのですが、たまたまそういったラジオを持っていたため完全にオタクに思われてしまったようです。確かに高校に入ったばかりの頃はその男子も所属しているという物理部に入ろうかと思ったことがありましたが、活動しているのだからどうか良く分からなかったので結局陸上部に入部しました。

「今度物理部を見に来なよ。」

夏の陸上競技会が終わったら本格的に受験勉強に取り組まなければならないというのに、この物理部の男子は気楽なんだな、と思いました。

薄暗い廊下の突き当りにある部屋の前まで来て立ち止まりました。部屋の中からはモールス信号のような音が聞こえてきていました。その怪しげな雰囲気躊躇ってしまったのです。でもせっかくここまで来てみたのだからと思いきって扉を開けて中に入ってみることにしました。

中には男子が3人いて、そのうちの2人は机の上の大きな機械から聞こえてくるモールス信号を一生懸命解読しているようで、そしてもう1人ソファに座って雑誌を読んでいたのがこの間声をかけてきた男子、佐野君でした。

「来てくれたんだね、さあ中に入って。」

機械のことなんて全然分からない私に向かって佐野君は、コレが何々の無線機で周波数がどうだとか海外と交信できるとか説明してくれました。そして私が通学の時に使っているラジオに良く似た赤いラジオも棚に並んでいました。私はすっかりラジオオタクだと思われているようですが、特に物理部でのメインの活動であるアマチュア無線についてはさっぱり分かりません。それでも交信するには試験を受ける必要があることや大きなアンテナの話を、結局帰りのバスの中でまでずっと話してくれました。私は佐野君の話にすっかり聴き入ってしまっていました。

佐野君は頭が良かったので、夏の陸上競技会が終わってからは数学や化学を教えてもらうことにしました。勉強の合間にアマチュア無線やラジオの事をよく話してくれるのですが、ちょっと難しくて相変わらずよく分からないままです。

第3章

高校を卒業して東京の大学に進学してから一人暮らしをするようになった。田舎から出てきたわたしにとっては日々新鮮で、サークル活動にバイトに励んでいた。勉強もそれなりにと思っていたのだけど、そうでもなかったみたい。英語教師を目指しているものの英語以外の出来が悪いものだから。

「今度の土曜日、泊まってい？」

お父さんからメールが来た。これが彼氏からのメールとかならもう少しテンションが上がるのだろうけど、残念ながら今はフリーだ。もちろんお父さんのことは嫌いではないけど……。こんな風に2カ月に1回くらいお父さんは上京してきて、秋葉原で何かの集いとか飲み会とかの後わたしの部屋に転がり込んでくるのだ。

今夜もべろんべろんに酔っぱらったお父さんがやってきた。あんまり強くもないのにお酒が好きなんだから。

「このあいだ高崎駅前の居酒屋でほら、なんだっけアイツ、お前の高校の同級生の。一時期よく家まで送ってってくれてたよな。そうだ、佐野君だ。飲みに行ったらバイトしててさ。就職が決まって来年から大阪に行くんだってよ。お前はどうすんだよ？」

「もう、うるさいなあ！わたしはわたしで好きなようにするからほっといてよ！」

なかなか就職の決まらない苛立ちと久しぶりに懐かしい名前を聞いた驚きから、冷たく当たってしまった。

結局サークル OG の先輩のツテで就職が決まったのは冬前になってからだった。今度就職して引っ越すとき絶対持って行ったほうが良いと先輩に勧められて、赤いラジオを実家に取りに行くことにした。

「わたし就職決まったけど、今より遠くに行っちゃうから……。」

高校を卒業してから一人暮らしをしても、お父さんとは度々会っていたからそれほど心配ではなかったけど、今度就職したらそうもいかないと思う。

「んー、まあ、いいんじゃない。オレも今度神戸に行くし。ミーティングでね。」

こうやって真剣な話のときはいつもなんとなくはぐらかされてしまうので、結局お父さんの本心は良く分からないままなのだ。

第4章

私がここに来てから3回目のクリスマスを迎えようとしている。勢いで日本を飛び出してみたものの最初の1年は右も左も分からず、何度ホームシックになったことか。その度に純子さんのお世話になっていたのだった。

純子さんはこの国でゲストハウスを営んで10年になる、いわばこの国での大先輩のような存在

だ。純子さんは若くして子供を授かったものの訳あって女手一つで息子さんを育てられてこられたのだそうだ。40を過ぎてから息子さんが大学を卒業するまで育て上げると、予てからやりたかった海外でのゲストハウス経営を始めたというのだから、どれだけ行動力があるのかとまったく脱帽の思いだ。

私はと言うと学生時代になかなか就職先が見つからず、先輩の紹介でやっと得た職が日本から遠く離れたこの島国での日本語教師だったのだ。もちろん学校ではちょっとしたいざこざはたまにあるものの、幸いにも生徒や同僚にも恵まれながらなんとか生活している。そんな中、この春先に純子さんから紹介されたのがラジオ局での仕事だった。新たに日本向けの日本語放送を始めるといのだが、アナウンサーの適役が居ないというのだ。元々は純子さんへのオファーだったが、ゲストハウスでの仕事はなかなか忙しく兼業は難しいらしい。

「ラジオか・・・。」

日本を旅立つとき心細くないようにと実家から掘り出して持ってきた赤いラジオは、はじめこそ日本からの放送を少し聴いていたものの、こちらでの生活に慣れてくるとだんだん聴かなくなっていたのだった。高校時代も通学時に英語講座を聴くだけの“道具”だったし。中学生の頃に聴いていた放送局はいつしか放送をやめてしまい、それきりラジオから遠ざかっていたように思う。

放送番組の収録でマイクに向かってしゃべるのは学校で子供相手に授業をするのと勝手が違うので、やはり最初はかなり戸惑った。それにこんな遠く離れた島国で日本語放送なんてやってもどれだけの人が聴いてくれるのだろうと、虚しくなるときもあった。しかしはじめてから数カ月後には、日本で発売された雑誌の影響もあってか、日々届く受信報告書やリスナーからのお便りの数が増えていったのだった。

いつも届くお便りは中高年のおじさま層や少年たちからのものが多いのだが、今日は珍しく可愛い丸文字の女の子からの手紙が混じっていた。今日収録する番組のお便りコーナーのテーマ“私の憧れ”についてだ。

『わたしの憧れはラジオのお姉さんです。遠く離れた南の島からのお姉さんの声にはいつも元気をもらってばかりです。いつかわたしも誰かのために元気をあげられるようになりたいです。』

懐かしい記憶と共に胸の奥を締め付けられたような気持ちになった。私は誰かのために元気を与えることのできる存在になれるだろうか。そして日本に残してきた父は元気だろうか。この放送を聴いてくれていたらいいな。

(完)

* 本書はフィクションであり、実在する場所・個人・団体とは無関係であることをお断りいたします。

著：なんば 奈菜

BCL のきっかけをすごく真面目に書いてみた！

DANCE(JI1VCQ)

高校時代からアマチュア無線は知っていたが、BCL(Broadcasting Lisutening/Lisuteners)は知らなかった。ラジオを聴く趣味という人がいるのは知っていたけど、それを BCL っていうことを、3年前まで私は知らなかったのだ。

私はとある技術系出版社で編集者をしている。3 年前にアマチュア無線の雑誌を担当することになった¹。高校時代にアマチュア無線部だったが、卒業以来アマチュア無線はやっておらず、知識は皆無。

そんな中、私は読者の声というページの担当になった。読者からの感想をまとめて掲載するコーナーだ。まずは読者を知ることからスタートした。その投稿の中に「最近アマチュア無線を始めて CW にもチャレンジしたい

というものがあり、その方の職業が「アニメーター」と書かれていた。アニメーターの方がアマチュア無線に興味を持った！？ どんなきっかけなんだろうと好奇心にまみれ、私はメールを書いていた。

実は、このアニメーターこそ、BCL を趣味としている長谷川真也さん(JS1BXH)で、2018 年の連載「RADIO ワンダラー」と 2019 年の連載「BCL ワンダラー」を執筆してくださった筆者だ。長谷川さんは、中学生時代にはまっていた BCL を再開し、アマチュア無線も始めたという。私は、長谷川さんの話す BCL という趣味に惹かれた。

私は、久しぶりのアマチュア無線の世界に戸惑い、また、相手が必要な交信に気後れしていた。それに比べて、ラジオを受信する BCL はとっても気軽に、また、気楽に楽しめると思った。そして、アマチュア無線をやりたいけどちょっと気遅れているビギナーやカムバックハムに BCL はピッタリだ！とひらめき、BCL 連載を企画することになる。

2018 年 1 月号～12 月号までは、「RADO ワンダラー」という名前で連載を行った。あえて BCL という言葉は使わなかった。そして、最新の SDR(Software Defined Radio)を使用してラジオ受信を楽しむという、現代の BCL を紹介するものだった。

2019 年 1 月号から、より昔の BCL を感じさせる連載企画へとシフトし、連載名も「BCL ワンダラー」に変更した。毎月のターゲット局を決めて、読者みんなを受信にチャレンジするというものだ。編集部内では受信報告をしてくれる読者がいるのかとの心配もあったが、この企画は初回から人気を集めることになる。多くの読者が受信をして、その結果を報告してくれたのだ。本当にうれしかった。

私が初めて BCL で DX をしたのは、All Indio Radio(インド)だった。インドからの電波が、約 1 万円で購入した BCL ラジオ D-808 で聞こえることにびっくりした。

今の世の中は、海底ケーブルでつながったインターネット網により、世界中の情報をリアルタイムに得られる。本当に便利で、しくみを理解しなくても使いこなせる。便利な道具だが、ブ

¹現在は編集担当から外れている

ラックボックスって面白くない。BCL は情報を得られるだけではなく、電波伝搬という物理現象も感じられる部分に、純粹に惹かれた。

毎月、あわただしく仕事に追われる日々だが、BCL は今飛んでいる電波を捕まえる。ラジオで聞くほうが放送局のある遠くの国をとってもリアルに感じられた。なんだか、とってもゆっくり静かに時間が流れる感じがする。今どきの忙しい現代こそ、こういう趣味が必要なのかなあとも思った。

これがBCL を知った 3 年目の私だ。これからも、ふわっとマイペースに BCL を楽しもうと思っている。

女子ばいこと、何にも書けなかったなあ。。。



■参考文献

- (1) BCL ワンダラーのWeb サイト、<https://ham.cqpub.co.jp/category/bcl/>
- (2) BCL ワンダラーのTwitter、@BclWanderer

【ハムフェア雑感】 BCL 女子が増えてる予感。

せきやま☆れいわ

「ハムフェア 2019」に出展しての感想です。

令和元年は「BCL 女子元年」と言っても良いのではないかと感じました。まずは友人のえいみさんが数十年ぶりに BCL を再開されました。2019 年 7 月にはスリランカの元 SLBC アナウンサー岡田陽子さんにお会いに行かれるなどそのアクティブなご活躍はすでにみなさんもお存知のことでしょう。その功績を称えて「BCL of The Year 2019」を贈呈しました。昨年の「BCL カンバック賞」に続いての授賞です。

またその他にも「秋葉原 BCL クラブ」のブースには何名かの女性が訪れてくださいました。

お一人は「むかし BCL をやっていたが子育てが一段落ついたのでまた始めようかと思って」という主婦の方。ブースに並べた BCL 本や中華ラジオの展示に興味深くご覧になっていました。えいみさんとも女子トークを繰り広げられていましたね。今回のご来場が BCL 再開のきっかけとなれば幸いに思います。



もう一人はぼくの大切な友人 S さんの娘さん。毎年親子で遊びに来てくださるのですが中学2年になって少し BCL に興味が湧いて来ているのだとか。お父さんがとてもセンス溢れる BCL ライフを楽しまれていますので娘さんにも期待が持てますね。その素性の良さは間違いのないところでしょう。こちらもえいみさんがやさしくお声をかけられ勝手ながらこの日が「BCL 女子デビューかな？」と思いました。そしたらなんと偶然にも当日がお誕生日ということもあってぼくからは真っ赤なラジオをプレゼントさせていただきました。お父さんがこっそり「魔女の宅急便のラジオみたいだろ？」と声を掛けられていたのが微笑ましかったですね。いつの日か「秋葉原 BCL クラブ」へのご入会をお待ちしています。



この時点で「**BCL 女子元年**」を予感したぼくはいそいそと CQ 出版さんのブースにおじゃましてこちらもBCL 女子のお一人にお声がけしました。えいみいさんをご紹介して一緒に盛り上げてくださいますようお願いしておきました。早くも「女子会やりましょう！」などと意気投合していたようです。たのしみですね。



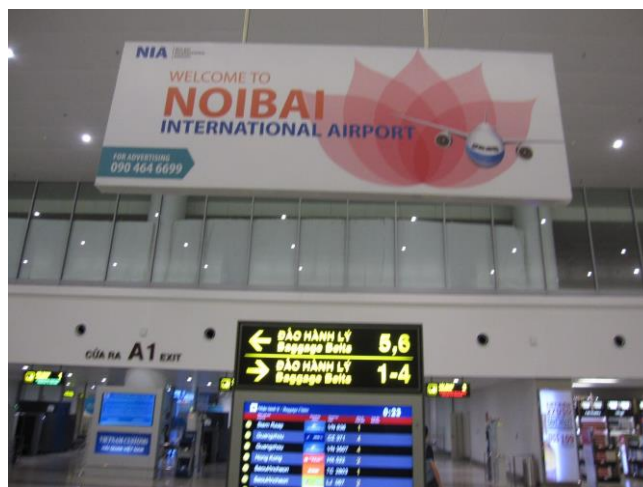
この記事をご覧になって「**BCL 女子部**」にご興味をお持ちになられた女子がいらっしゃいましたらえいみいさんのツイッターアカウントまでダイレクトメッセージをお気軽にお寄せください。おまちしています。

えいみい：@amyxxxamyxxx

「ベトナムの声」といっしょ

植村 昭男

2019 年 11 月 16 日に鳥取県境港市で開催された山陰 BCL の集いで、VOV ベトナムの声を訪問された時のお話を大変興味深く聴かせていただいた。この時のお話に触発され、2017 年に VOV 訪問した時の事を書き記してみた。



ベトナムを訪れたのは 2017 年 6 月 27 日から 30 日までの 3 泊 4 日、某旅行会社の関西空港発着・ハノイとハロン湾を巡るツアーで、妻との 2 人旅。旅行初日 27 日は 19 時発の香港航空で途中香港を経由し、ハノイ到着は深夜 23 時過ぎ、そのままホテルへ。

翌 28 日は午前中にハノイ中心部のホーチミン廟、一柱寺、タンロン城遺跡を観光、昼食後、午後のフリータイムにいよいよベトナムの声へ向かう。局訪問希望の旨は事前に VOV 日本語課へメールし、了解のお返事を頂いている。



13時の訪問時間に合わせて、ホアンキエム湖の景色をのんびり眺めながら歩いて行くと、工事中の建物の間からアンテナの建つ放送局らしきビルが見えてきた。約束の時間より早めの到着だったが、ビルの近くで日本語課のハーさんが待っていて下さり、迷う事なくVOVに到着する事ができた。感謝！

局に入ってすぐのロビーには、リスナーから送られてきた多くの手紙や贈り物が各言語課別に飾られている。

そしてハーさんの案内で、3階にあるVOV日本語課の部屋へ。

お会いしたのはこの日出勤されていたゴックさん、タオさん、そしてハーさん。皆さん、ベリカードや番組表の写真よりずっと若々しく見える。

到着後、自宅でのVOV受信状態や番組についての感想をお話し、ゴックさん達からは日本語課のお話をいろいろと伺う事ができた。



お邪魔した際、蓮茶とライチ、プラムでもてなしていただいた。
この時期の旬の果物という事もあって、とてもみずみずしく華やかな香り、そして
付け合わせはベトナムに来て初めて見た赤みがかった唐辛子塩。
パイナップル、グアバなど酸味のある果物を食べる時には欠かせないようで
プラムにつけて食べると甘さが引き立って美味しい。この唐辛子塩だけでも美味。

ひとしきりラジオ話をした後、妻がハノイでのお薦めレストランやベトナム
コーヒーの店を尋ねると、そこからは蓮茶と果物をつまみつつ女性同士ワイワイ
ガヤガヤ、さながら女子会の様相。皆さんに行きつけの所を色々教えていただく。
店の場所といった詳細な情報も PC で調べて下さるなど、とても親切。

女性陣が賑やかにおしゃべりをしている間に、スタジオを見学させていただく。
ちょうど読み合わせのリハーサル中だったが、その横では昼食中のスタッフもいて
緊張感はなく、結構のんびりとした雰囲気。



左端：ハーさん、右から 2 人目：ゴックさん、右端：タオさん

親切に対応下さる日本語課の皆さん、そしてとても居心地の良い局内の雰囲気です。ついつい長居してしまい、14時頃までお邪魔させていただいた。

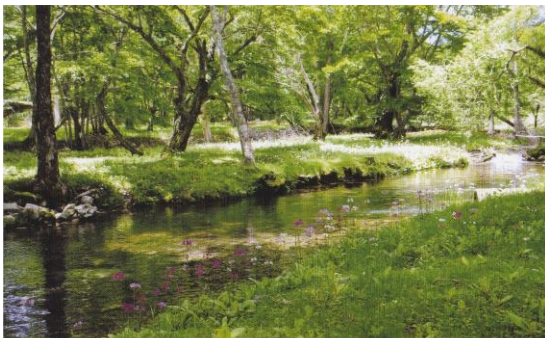
お忙しい業務の合間にお相手をして下さったゴックさん、ハーさん、タオさんに深く感謝。妻も日本語課の皆さんとの女子会(笑)が楽しかったようで何より。

その後は VOV で教えていただいたエッグコーヒーの店などハノイ旧市街を気ままに散策。夕食も局で教えていただいたベトナム料理店でブンチャー、生春巻きを堪能する。あっさりとした味付けでとても美味しい。結構、日本人好みの味かも。お洒落な雰囲気に美味しい料理のこのお店、私も妻も気に入って翌日もここで夕食。





29日は一日かけてハロン湾観光。あいにくの天気だったが、雄大な多島美を楽しめた。30日は早朝ハノイを発ち、夜には帰宅。
旅行中、僅かの時間ながら地元 FM局などを聴く事もできた。
RADIO JAPAN、VOV 日本語 FM 放送(受信地：岡山県が残念！)からは QSL を頂く事ができ、私にとっては何よりのベトナム土産となった。



クアンナム省の日ざし (撮影:Đặng Kế Đông)

VERIFICA
Thank you very much for your reception report on our broadcast.
The information given is in accordance with our schedule.
We hope you will continue to enjoy our programs and send us your thoughts about them.

受信報告ありがとうございます。内容はラジオ日本の放送と合致しております。これからも番組についてのご感想をお寄せください。

NHK WORLD RADIO JAPAN
NHK, TOKYO 150-8001, JAPAN
nhk.jp/nhkworld

「森の妖精クラング」(栃木県)
"Primrose Woodland Fairies"
(Tochigi Prefecture)

植村 昭男 様

お送りいただいた受信報告を、下記の通り確認致します。

受信日: 2017年6月28日
時間: 13時07分~13時26分(UTC)
周波数: 9750 kHz
送信地: 八俣送信所
言語: 日本語
受信地: ベトナム ハノイ

NHK 国際放送局

VOV5 受信確認証

植村 昭男 様

受信報告ありがとうございます。
あなたの報告を下記の通り確認いたしました。

受信年月日: 2017年 6月 28日
受信時間: 20時 50分 ~ 21時 00分
周波数: 105.5 MHz 受信場所: 岡山県

これからも引き続きお聞き下さい。
ご意見、ご感想をお待ちしております。

2017年 7月 26日

この文を書いている事を、ベトナムでお世話になったタオさんにお伝えすると大変喜んで下さり、メッセージと最近撮影された写真をお送り頂いた。タオさんは VOV 日本語課で音楽散歩道（火曜日）、おしゃべりタイム（木曜日）、リクエスト音楽（土曜日）の番組担当と、リスナーへの返信業務を担当されている。

以下、タオさんから日本のリスナーの方々へのメッセージ原文。

「毎日、ベトナムの声放送を楽しくお聞きいただき、ありがとうございます。本当に嬉しいです。私たち、日本語課スタッフは全員、これからも日本語放送番組の開発のため、より頑張ります。リスナーの皆さんの御応援・御奨励をいただき、感謝します。では、ご健康・ご多幸があります様に。」



左：ベトナムで有名な観光地
ニンビ省（ハノイから約 100km）
を旅行中のタオさん



右：VOV 局舎前で日本語スタッフの集合写真
左からアン日本語課長・東北アジア支局長、
ソンさん、タオさん、ゴック東北アジア
副支局長、ホアイさん、ハーさん、ミンさん。
写真には写っていないが、この他、日本語課
には日本語専門家の小松みゆきさんもおられる。

ベトナムの声を実際に訪問して感じた事、ベトナム旅行中に感じた事でもあるが時間のゆったり感、ほのぼのとした気持ちのゆとり、そして活気。VOV 日本語放送を聴いて、感じる雰囲気そのままだった。旅行から早 2 年、そんなベトナムをもっと感じたくて、今もよくダイヤルを合わせているお気に入りの日本語放送だ。

最後になってしまったが、局訪問時にお世話になった方々、そしてアーユボーワン向けにメッセージと写真をお送り下さったタオさんに厚くお礼申し上げたい。

「人生を楽しむ」…知ってもらいたい「私の気持ち三つ」

アエーシャー・ダルマシリ(スリランカ在住)

確かに、日本は外から見るととても豊かで最高な国だ。しかし、一年間、日本での留学生生活を経験して、スリランカ人の私の気持ちを日本人に知ってもらいたいことが三つある。

しばらく日本に住んでみると、日本人の心は豊かなのだろうか、と感じる。日本人はストレスや悩み事などが多く、自分の人生を楽しもうとしていないように感じる。人々の生活はバブル崩壊後も変わっていないのではないだろうか。働けば働くほど、お金を稼げるという時代は終わったと思う。

これからは、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の充実に政府や社会が力を入れていかなければならない。スリランカの国民はワーク・ライフ・バランスがしっかりしていると思う。社会格差があっても、お金持ちでも、貧しくても、みんな日々幸せを感じている。しかし、日本では残業や飲み会などで家族と過ごす時間がない父親が多い。子育てしやすい「ゆとりのある社会」が少子化問題解決のために不可欠だと思う。スリランカでは、金銭的に豊かになることより、「人生を楽しむ」という価値観が国の経済政策の中に盛り込まれている。そのことを、第一に、日本人に知ってもらいたい。



二つ目は、日本人はあまり感情を顔に出さないことを不思議に思います。

留学した時、大学の先生方は同じ表情で授業しているのを見て、びっくりし、困りました。スリランカの先生方は授業の時も、喜んだり、怒ったり、褒めたりします。それぞれ表情があります。だから、学生は先生の心がしっかりわかっていて授業の時も不安がありません。しかし、日本ではいくら頑張っても先生はあまり褒めないし、成績が悪くても先生から励ましてくれません。それが不安です。スリランカの先生方と比べると、日本人の先生は「先生の役割」を分かっていないのではないのでしょうか？

日本の社会について調べたとき高校生、大学生の自殺率が多いと知りました。スリランカでは学生と先生の関係はすごく近いので、学生は安心していろんなことを相談出来ます。だから、学生の自殺は少ないです。先生がちゃんと学生を守る気持ちが強いからです。学生でも、先生でも、社会人でも、本当の気持ちを顔に出して、何でも話し合う環境がいいのではないのでしょうか。

日本人に知ってもらいたい三つ目は、心にある気持ちは少しずつ出した方がいいと思います。気持ちがどんどんたまると、最後に爆発してしまう。そうならないために、誰にでも自分の本当の気持ちを表してほしいです。

以上の点が改善されれば、日本は外からみても内からみても、とても美しい国になるに違いありません。

ゴトゥコラのおいしい食べ方

なんば 奈菜

スリランカが大好きなラジオ友達のえいみいちゃんにゴトゥコラを分けてもらいました。どうやって食べたら良いのでしょうか？ えいみいちゃんはカラ揚げやステーキに“添えて”食べる方法の他に、おひたしやかき揚げにして食べたそうですが、かき揚げはちょっと風味が飛んでしまったそうです。油で揚げると高温にさらされると風味が飛んでしまうのでしょうか。そんなアドバイスを元にゴトゥコラ独特の風味が逃げてしまわないよう、できるだけシンプルな食べ方を試してみましたので紹介します。

ゴトゥコラとは

ゴトゥコラは熱帯多雨林の葉が生い茂った湿地帯に生息している植物で、スリランカをはじめインドやタイなど熱帯、亜熱帯の地域で古くから健康食品として馴染みのあるものだそうです。日本でも西日本では生息しているようで「ツボクサ」と呼ばれているそうです。

ゴトゥコラは「若返りのハーブ」という別名があって、脳の活性化とか皮膚細胞の再生とか血液循環の改善とか・・・いろいろな効果があるみたいです。



たまご焼きに添えて

まずは一番シンプルに生で食べました。朝食のたまご焼きとソーセージに添えて。よく“三つ葉のような”と例えられていますが、三つ葉よりももう少し苦味があってしっかりした歯応えがあります。葉っぱの部分は少しごわごわした感じもありますが、茎の部分は意外とほとんど気にならない食感です。最初口に入れて噛んだ瞬間は苦味が広がり、よく噛んでいくうちにほんの少しだけ甘味が出てくるような感じがしました。ほんのり鼻に抜ける風味は独特で、さわやかにも思えました。



ゴトゥコラのキーマカレー

“スリランカ”で思いつくのは、まずはカレーです。でもスリランカ風のカレーは難しそうなので、簡単でおいしいキーマカレーを作ることになりました。ひき肉と玉ねぎを炒めてある程度火が通ったら刻んだゴトゥコラを入れます。ゴトゥコラに軽く火が通ったらカレールーをひとかけ砕いて入れます。ゴトゥコラの存在感をしっかりと出すには、ゴトゥコラをもっとたくさん入れても良さそうでした。カレー味の中にゴトゥコラの風味が合わさって、ちょっとスリランカな感じを味わえました。



ゴトゥコラ入りのたまご焼き

朝ごはんのおかずとして、ゴトゥコラを入れたたまご焼きを作ってみました。まず刻んだゴトゥコラを軽く炒めてから溶いた卵を流し込みます。私のたまご焼きは砂糖>塩でちょっと甘めの味付け。たまご焼きの具材は何でも合いますが、ゴトゥコラは特に相性が良さそうです。たまごのまろやかな味に少し癖のあるゴトゥコラの風味が合わさって、味も香りも食感も抜群です。



ゴトゥコラのコンソメたまごスープ

何かスープに入れたらおいしそうと思って、一番手軽なコンソメスープに入れてみました。コンソメをひとかけ溶いたスープの中にゴトゥコラを入れてほんの少しだけ煮ました。最後に溶いた卵を流しいれて完成です。とっても簡単。ちょっとお酒を飲み過ぎた日の翌朝なんかには、ゴトゥコラの成分がほろ苦さと一緒に体中に染み渡る感じがしてすっきりしそうです。クリームスープにしてもおいしそうです。





せきやま☆れいわのオフ会スペシャルレポート。

2019 年 12 月 28 日の午後に開催されました「瓦版 BCL ワンダラーのオフ会」に参加して来ました。会場は CQ 出版さんの 5F イベントスペースです。なんと、オフ会のもようは「ニコニコ生放送」でネット配信されるとのこと。これは楽しみです。



ご講演が始まりましたよ。アベックスラジオさんからの「新製品」ご紹介には会場が湧きました。



これは永久保存版。惜しげもなく「DX ペディションのノウハウ」を大公開いただきました。



KTWR フレンドシップラジオさんへのリスナー愛を熱弁！



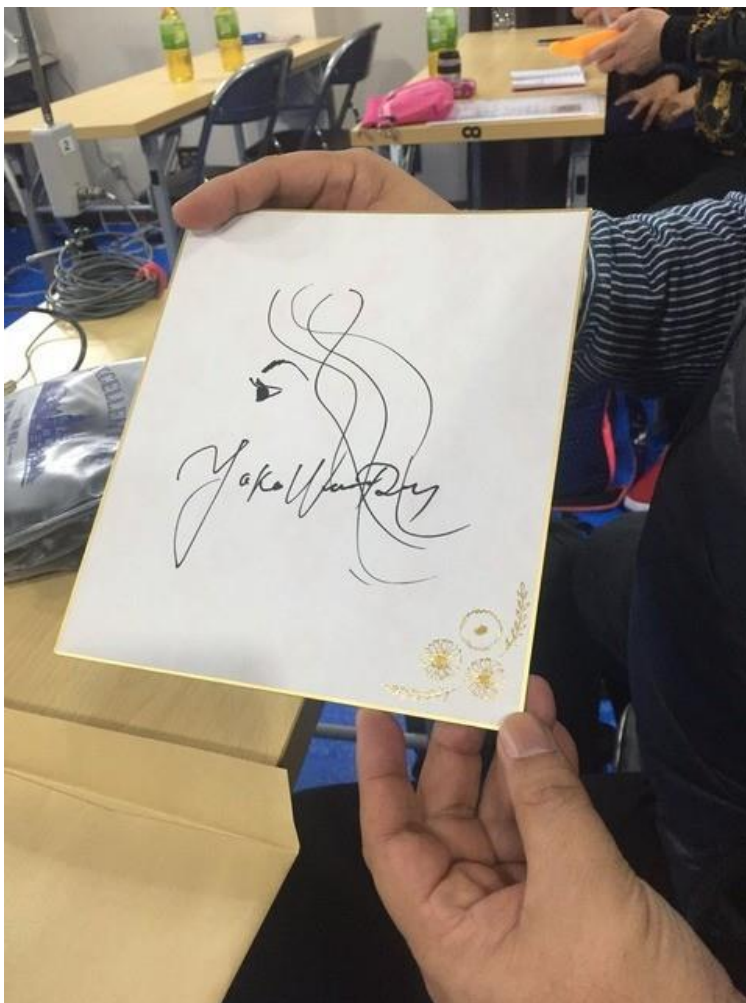
トリは「せきやま☆れいわトークショー」で爆笑いただきました。あざっす。(笑)



「今月のターゲット局」の投稿皆勤賞のみなさまの表彰もありました。



元SLBC アナウンサーの岡田陽子さんの直筆サイン色紙のプレゼントも！



ご参加者のお一人。



ご参加のラジオたち。



非公式記念写真。このもようは CQ 誌上でご紹介されました。



居酒屋さんで「混信会」を開催。光栄にも幹事の大役を務めさせていただきました。



こっちのテーブルは見るからに濃ゆいですね。あちこちで「悪だくみ」も。



貴重なベリカードの回覧もございましたよ。思わず目に留まったのはこれ！



ご自作のアンテナアンプを見せていただきました。橋本 OM の頒布基板ですね。



サンタさん降臨ですよ！(笑)



もちろん「D-808 争奪じゃんけん大会」も行われました。おめでとう。



「瓦版 BCL ワンダラー」の担当編集者さんに「BCL of The Year 2019 特別賞」を贈呈しました。楽しくて情報満載の連載をどうもありがとうございました。私たち BCL からの感謝の気持ちです。



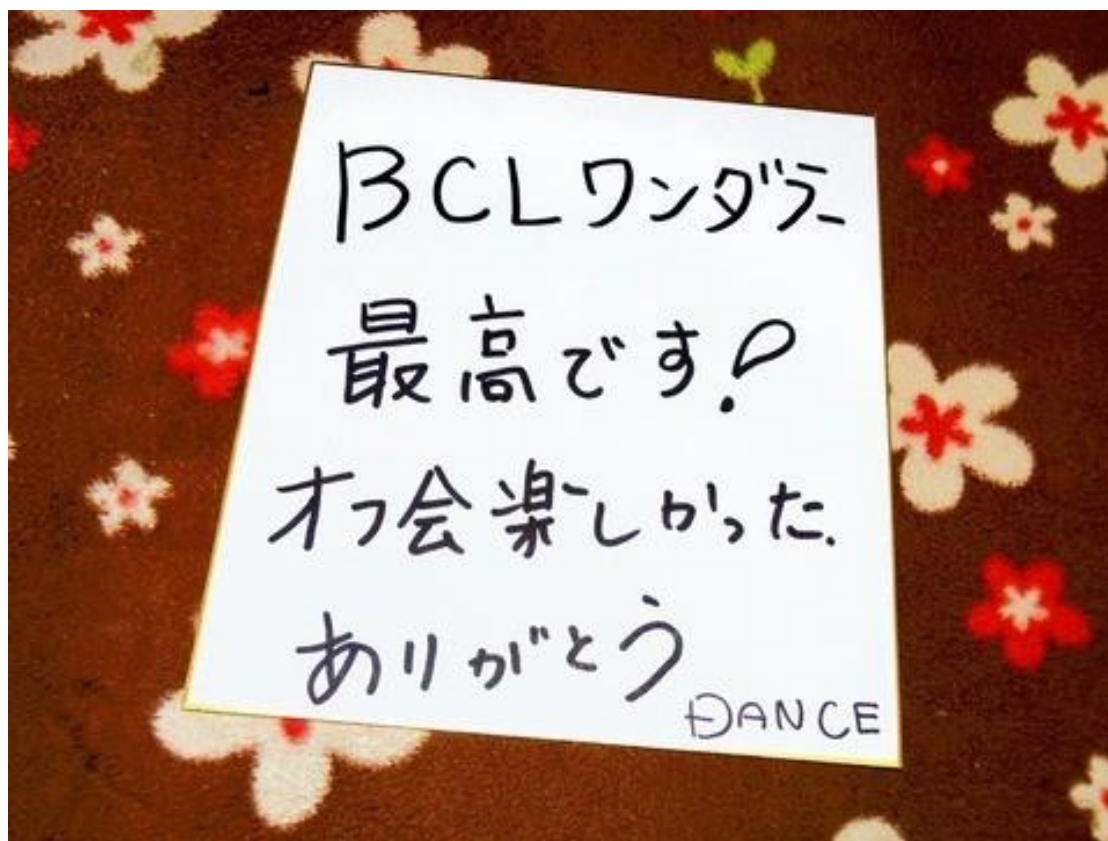
今回の戦利品その1。CQ 出版さんの大判カレンダー。



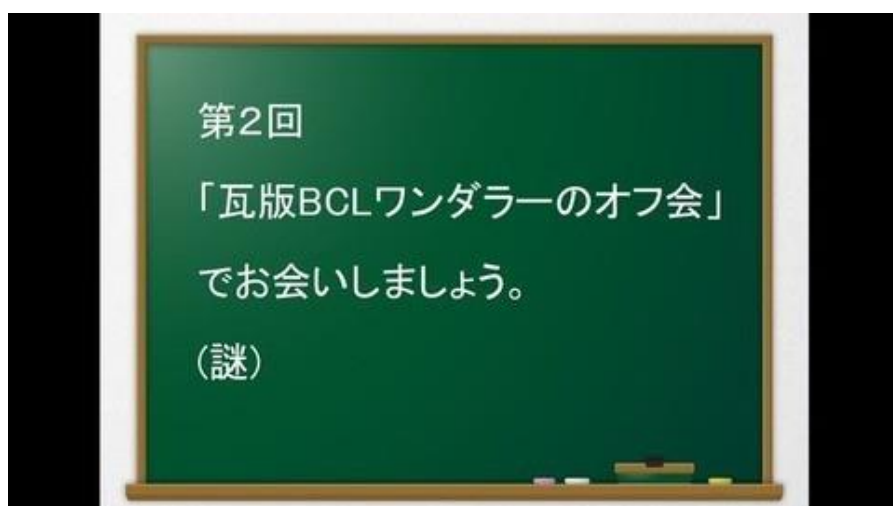
今回の戦利品その2。会場までの階段に貼られた案内板。



今回の戦利品その 3。担当編集者さんの今のお気持ちを一筆いただきました。



とても楽しく新鮮なオフ会でした。参加して良かったなあと思いました。CQ 誌での連載が終わってしまったのは残念ですが機会があればまたこのようなイベントを開催して欲しいものですね。その時はまた協力させていただきますので。よろしくお願いします。



「瓦版 BCL ワンダラー」の執筆者、長谷川眞也さんのブログに詳細なご報告がありますのでぜひご覧ください。

瓦版 BCL ワンダラーオフ会報告

<https://bclguide.exblog.jp/30649290/>

【おしらせ】 秋葉原 BCL クラブ関西支部ができましたよ。

このたび秋葉原 BCL クラブ関西支部(略称:ABC West)ができましたよ。以前から何度も行われて来ました「BCL 悪だくみ」の功績が認められての昇格という感じでしょうか(笑)。独自のベリカードコンテストや都会のど真ん中でのペディションなど楽しい企画が盛りだくさんのようですよ。これからも一緒に BCL を盛り上げて行きましょう。



支部会合はもちろん大阪の BCL の聖地・東三国のカレー屋で。



勢い余ってこんなのも出しちゃいました。いつでもどこでも BCL。



深夜営業の焼きドーナツ屋さんで「関西支部設立祝い」の買い食いの儀。



支部会のイベントは随時ご案内して行きたいと思います。関西地区にお住いの BCL のみなさん、ぜひご参加ください。もちろん日本全国、全世界からのお越しも歓迎します。

(せきやま☆れいわ)

第2回 神戸JAZZ&BCLの集い Presents

さまならやあ BCL Night

2020.2.29.SAT

START 18:00~
(19:00 終了予定)



CAST

ヴォーカル	えいみい
ピアノ	Keiko
サックス	Shin

場所

スタジオ246 WEST
神戸市中央区北長狭通2-1-6
三宮三陽ビル3F/4F

チケット

入場無料 (投げ銭歓迎)

問い合わせ

秋葉原BCLクラブ関西支部
E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp



BCL of The Year 2019 を表彰しました。

毎年 BCL の発展にご尽力くださいました方に感謝の意を込めて「BCL of The Year」の表彰をさせていただいております。2019 年は一団体、一個人を表彰しました。受賞者のみなさんには記念のトロフィーを贈呈しました。

アジア放送研究会さん

とし設立 40 周年を迎えられました。東アジアの放送研究という BCL における唯一無二のジャンルを確立され 40 年という長い年月に渡り活発な活動を継続されて来ました。12 月には 40 周年記念事業の特別短波放送を実施されました。さらなるご活躍に期待します。



金澤江美さん

昨年カンバック賞を受賞されました。その後もアクティビティは衰えることを知らず「神戸 JAZZ&BCL の集い」や「スリランカの岡田陽子さんに会いに行こうツアー」においてその存在感を遺憾なく発揮されました。今後も「BCL 女子部」などさまざまな方面での活躍が期待されます。



これからもみなさんと一緒に BCL を盛り上げて行ければいいなと思っています。

(せきやま☆れいわ)

哀愁の秋葉原に電磁波が降るのだ

せきやま☆れいわ

彼と会ったのはおよそ 25 年ぶりであった。

秋葉原で BCL のオフ会をやろう。ある日そう思ったぼくは日程と会場を決めて SNS で参加者を募集した。なかなか希望者は現れなかった。それもそうだろう。どこの誰とも知れん奴が「オフ会やりましょう」などと言っても気持ち悪くて相手にする人はいないのが当たり前だ。ぼく自身もあまり期待はしていなかった。そもそもがダメ元であったのだ。数日が過ぎて半ばあきらめの中、一件のメッセージが届いた。

「参加します」

ぼくはびっくりした。参加希望者が現われたことよりもその参加者が彼であったからだ。若くして OM と称されるほどの BCL 界の超有名人。BCL 専門誌でアドバイザーを務める超一流の実力を持つ DXer である。底辺の無名 BCL のぼくはその光り輝く名前をみただけで正直びびってしまった。

結局、参加者は彼とぼくの二人だけであった。ホントかよ。まさかこんなことになるなんて。何を話したら良いのだろうか？ レベルが違い過ぎる。軽い気持ちでオフ会を企画したぼくの心境は複雑なものであった。これも BCL の神様の悪戯であろうか。ただ、ぼくは 25 年ぶりに彼と会うことで何かが生まれる予感が少しだけした。その時はまだそれが何かはわからなかったけれど。当日ドキドキしながらぐんまから秋葉原に向かい、待ち合わせのワシントンホテルに近付くと彼の姿が見えた。笑顔で頭を下げてくれた。

二人きりでの初めてのオフ会は緊張するしかなかった。誘っておいて黙っているわけにもいかないのて話を切り出した。「BCL を始めたきっかけは？」などと在り来たりの質問をするしかなかった。これだけの有名人だ、そんなこと嫌になるほど聞かれているに違いない。しかし彼は幼少期のラジオとの出会いから丁寧に語ってくれた。少し場が和んできたところでぼくは思い切ってあることを聞いてみた。「たしか山田耕嗣先生のお弟子さんだと伺ったことがあるのですが…」。じっさいその通りであった。山田先生のお宅の近くにお住まいだったとのことで放課後になると先生のシャックが遊び場であったのだと言う。なんとも羨ましい話であった。

気が付けば 3 時間以上が過ぎていた。思いがけずいろんな話を聞くことができ勉強になった。たった二人だけのオフ会ではあったけれどぼくにとっては BCL の聖地・秋葉原での大きな第一歩であった。特別な時間を共有してくれた彼には感謝したい。

(つづく)

あとがき。

アーユボーワンNo.3、いかがだったでせうか。

『BCL女子特集』ということで、BCL女子部メンバー＆サポーター会員によるキャツキャ♥感満載でお届けいたしました。

今回はスリランカに行ってきたメンバーの旅行記が中心でしたねえ。(あ、読んでない人、是非読んでやってください。web で読めますんで www)

で、今回はまあ『BCL女子特集』つつてますが、もーそーゆーのあんまり気にせず好きなこと書きちゃってください！！とゆー『アーユボーワン』的発想の冊子となりました。おいっ女子部どこいった！！って思うかもですが、出来上がったら結構乙女な仕上がりになってていやーよかったよかった^^；

『アーユボーワン』は昔々JKえいみいが勝手に作っていたゆるゆるペーパー『アーユボーワン』を復活させちゃお！的なものだったんですが、なんかすんごい進化しちゃって感無量。

BCLな方々の一人一人の個性がスパークしておもしろい読み物が出来上がっちゃったと思う、°.。+°

もおこれは進化というより別もんや！！ということによろやく気づくえいみい。

これからどんな冊子に育っていくのかな(≧▽≦) えいみいはスリランカへの気持ちがさらに熱くなってきたよ！！

いつまで日本にいられるかな(まいどっ)

強くてしなやかなBCL女子をこれからもあたたかく見まもっていける存在にになれるといいなとしみじみ思う元JK なのです。

それではまたお逢いいたしましょう。

(えいみい)

※アーユボーワンとはシンハラ語で「こんにちは」という意味です。

B C L ファンの交流誌「アーユボーワン」 No.3

まるごと「BCL 女子」の特集号 (2020 春)

発行日： 初版2020年2月29日(第2回神戸JAZZ&BCLの集い)／第2版2022年3月1日

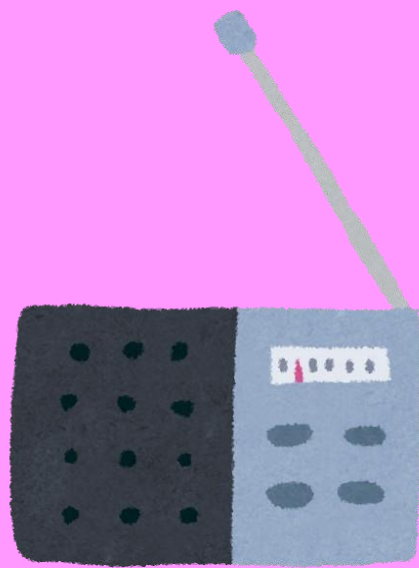
編集人： 金澤 江美(Office Samanalaya)／伊藤 晃 (秋葉原BCLクラブ)

発行所： 秋葉原BCLクラブ

website： <https://www.abc50s.net/>



(C) 秋葉原BCLクラブ2022



秋葉原BCLクラブ